

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2023年7月4日放送分・新坂／新坂通】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 今回は、これまで何度も話題に出てきた城下町の難所「へくり沢」の谷底を歩いてみようという、ドキドキの歴史散歩です。そもそも、へくり沢とは城下町の西側を深くえぐる沢です。木村さんの踏査によると、貝ヶ森団地の南が源流とみられ、国見小学校を通過して八幡小学校の西側を抜け、広瀬川に注いでいました。かつて作並街道行きや大崎八幡宮参拝の折など、この深い沢を越える事ができず、北側に大きく迂回する必要があったのです。今はほとんどの区間が暗渠となっていますが、沢の水は地下を流れ続けています。
- スタートは、尚絅学院高校から少し北に坂を上った所の土橋通沿いです。ここに立って東側を望むと、深い谷地形が手に取るように分かるという場所。へくり沢の深い谷を越えるため、江戸時代前期に作られたのが土橋でした。それ以降もここを越えるために、崖を切り通したり、埋め立てたり…何度も土木工事が行なわれて来たのでした。土橋から石段をジグザグに、へくり沢の底へ下りると、両側には最大落差20mの崖がそそり立ちます。意外にも、へくり沢の底は住宅地となっていました。広瀬川にかかる澱橋の少し下流に水門があり、沢の水を吐き出しています。

- 近くの「澱不動尊」には、鎌倉時代中期の文永年間に建立されたという板碑が残されています。領主の留守家弘という人物を供養したとされるもので、仙台市内に現存する最も古い板碑といわれています。阿弥陀三尊を表す梵字が刻まれていたり、美術的価値も高いもので必見です。



- さて、へくり沢から青葉区広瀬町の旧知事公館前に上がる坂のカーブに今月の辻標「新坂／新坂通」があります。コーナー37本目の辻標です。新坂というからには、新しい坂というわけです。この下の広瀬川には、今はなき「支倉橋」という橋がかかっていました。水害で何度も流されたので、17世紀末の元禄年間に、流れの緩い場所(=澱み)を選んで「澱橋」がかけられました。橋から支倉丁(現在の青葉区広瀬町)方面への道を新たに切り開き、旧知事公館前までの急な坂道を作りました。これが新坂です。新坂から北に伸びる南北の通りが、新坂通です。北詰は、北山の輪王寺まで通じていました。現在は途中を東北大学医学部の敷地に塞がっていますが、南北の門は常時開け放つ条件となっているようで、建前上「新坂通」は今も通り抜け可能という事になっています。

〈文・佐々木淳吾〉